

## 堆肥活用 の効果

- 農作業に合わせていつでも散布可能
- 飼料用稲では収量を確保しながら、化学肥料施用量の減少、または化学肥料ゼロの圃場も実現。

## 堆肥活用前 の課題

- 散布機が無く、堆肥の活用ができない
- 適切な堆肥の活用方法がわからない

## 機械等

- マニユアスプレッター
- ホイールローダー
- スtockヤード

### 農業者のプロフィール

#### 農業者名

江頭 幸一郎

#### 作物名

水稲、飼料用稲、麦類、大豆

#### 栽培面積

34ha

#### 所在地

江北町惣領分

### 水稲刈取り後の堆肥散布



ストックヤード等を導入したことで、作業の合間を見ての堆肥散布が可能になり、散布面積の拡大につながった。土壌の物理性が向上！！

### ホイールローダーでストックヤードに搬入

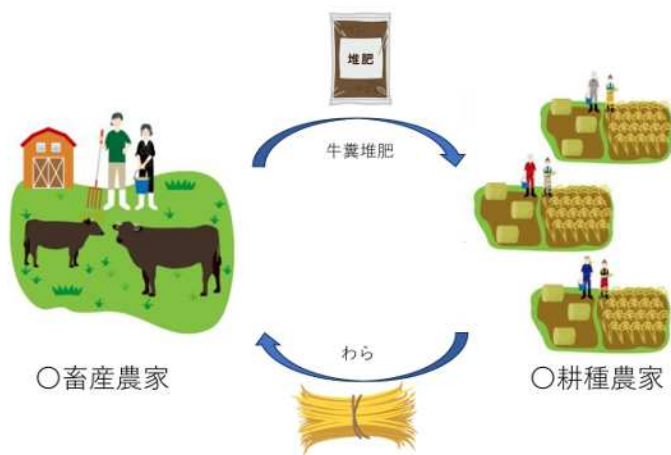


導入したホイールローダーによってストックヤードに搬入、作業効率が一気に改善。

## 耕畜連携の体制図

耕畜連携に至った経緯

地域の畜産農家から堆肥を導入、代わりに稲わらを提供してWin-Winの関係に



【使用量】

1.5t/10a

【運搬方法】

畜産農家よりストックヤードへ搬入

【散布方法】

導入したマニユアスプレッダーにより散布

【経費の削減等】

- ・さらに施肥量を減らして、経費削減を検討
- ・土壌がやわらかくなって土づくりができた

## 堆肥ニーズの年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												
		150t			150t		150t					

## 活用した耕種農家の感想



- ・ 稲刈り後に、稲わらを畜産農家に提供、畜産農家からは堆肥をもらい、地域で循環させる仕組みができた。
- ・ 飼料用稲では化学肥料を減肥しても問題なく収量が確保できた。
- ・ 散布した圃場の土壌は柔らかくなっており、土づくりでは効果を実感している。

## 今後の目標・方向

- ・ 散布する面積を増やし、さらに堆肥を活用して、作物に良い土づくりをやっていきたい。
- ・ 堆肥散布によりコスト削減につなげていきたい。